

## モニュメントについて

原型制作 木彫刻作家 政所新二  
石 工 (有) 茂木石材工業  
監 修 小林秀夫  
寄 贈 塩川哲郎(2代目伊一郎の孫)

### 【作品について】

斜めに横たわる下の石は、小諸の大地であり、長い歴史でもある。そこからエネルギーにわきあがってくる上向きの新しい動きがある。それこそ、塩川伊一郎父子が試みた桃と苺の栽培、産学連携と6次産業化の動きである。動きを支えているのは浅間山麓の小諸の風土、そして小諸義塾塾長木村熊二である。

新しいムーブメントが生まれた瞬間を表現している。

### 【原型制作者 政所新二 略歴】

1964 長野県小諸市生まれ  
第49回モダンアート展「LIVEPIANO」新人賞受賞 / 第3回全国木彫刻コンクール井波「風の図鑑」最優秀賞受賞 / 小諸市成就寺山門彫刻「龍」制作 第11回信毎選賞受賞 / 2007年全国木彫刻コンクール井波にて「母子」伝統的工芸品産業振興協会賞受賞 / 日展・日本現代工芸美術展に出品をはじめ / 第54回日本現代工芸美術展「映月」現代工芸大賞受賞 / 第6回全国木彫刻コンクール井波「たま」井波彫刻奨励賞受賞 / 市立小諸高原美術館・白鳥映雪館で企画展「政所新二木彫展一美は細部に宿る一」 / 作品集「政所新二の世界」刊行

### 【モニュメントに寄せる思い】

私が碑の建立を考え、小諸市へ寄贈させて頂きましたのは、木村熊二と塩川伊一郎父子の業績を皆様に未永く知って頂きたいとの思いからです。

小諸の土地は寒冷で火山灰の堆積する浅間山麓であり、そこでの農民は収穫が少なく生活は厳しいものでした。伊一郎は木村熊二の助言により桃栽培を始め、その後、同じく熊二の助言により桃の缶詰の製造を行い、小諸の大地に全く新しい産業を起こしました。更には苺ジャムの製造も手がけ成功しました。しかしこれらの事業の目的は農民の生活向上であり、決して私利私欲の為ではありませんでした。

小諸の桃は「浅間水蜜桃」として現在も生産が続き、ジャムは4月20日が「ジャムの日」と制定され、皆様に広く知って頂けることになりました。

建立にあたって、関係の皆様に多大のご尽力を賜り、大変感謝をしております。誠にありがとうございました。

塩川哲郎



原型



素材は、高峯山産出のおよそ5トンの石塊 原石



切り出し



加工彫刻

Monument of the birthplace of industry-academia cooperation

# 産学連携発祥の碑



明治29年 私立小諸義塾塾長 木村熊二と 塩川伊一郎の連携によって桃の栽培が始まり、桃の缶詰製造に発展していった。事業は苺ジャムの製造へと広がり、「ジャムの日」制定の基となった。



## 明治時代中期、三岡村（小諸市森山地区）で始まった 産学連携による桃栽培と、缶詰製造による農業の六次産業化

「信州佐久郡森山（小諸市）村民に塩川伊一郎といふ  
があり一日我が家を訪ふ。富めるもののみ地方の勢力を  
有すること、これ伊一郎の最も憤慨に堪えざるところなり。  
彼は余に森山村に來りて細民救済の演説をなし呉と  
依頼せり。」（小諸義塾塾長 木村熊二の文より）

明治 29 年、木村熊二は森山で演説を行い、桃と百合  
の栽培を勧めた。終了後聴衆は去ったが桃栽培を志す  
8 名が残り、熊二の資金援助もあり共同して桃の苗木  
750 本を購入し、開墾した畑に苗を植えていった。  
消毒や肥料については北佐久農学校の指導を受け、  
産学連携による桃の栽培が始まった。

生桃の販売は一時期に限られ、また傷みやすいのでそ

れを防ぐための方策について、熊二に相談した。熊二は、  
桃を缶詰にして販売するよう助言し、東京の缶詰会社を  
紹介した。伊一郎らは資金に苦勞しながらも缶詰会社を  
立ち上げ、農業の六次産業化を実現させた。

伊一郎は苺の生産にも取り組み、塩川缶詰合名会社製の  
苺ジャムが明治天皇に献納されるまでになった。

日本ジャム工業組合は、伊一郎の高い製造技術が日本  
のジャム産業の礎になったとして、平成 27 年、献上日  
である 4 月 20 日を「ジャムの日」に制定した。

明治期に「産学連携」と「六次産業化」を実現させた  
偉業を永く後世に伝えるべく、ここに記念のモニュメント  
を建立する。



小諸義塾塾長 木村 熊二



2 代目 塩川 伊一郎



明治時代の絵はがき



初期の桃畑



缶詰加工 皮むき



缶詰加工 殺菌



缶詰加工 封缶



缶詰のラベル



現在の桃畑